

## 浜名湖ブルーカーボン未来創造プロジェクト

### 取組概要

● 地元の漁業組合や市民活動団体、企業、行政と協働し、浜名湖の水質調査や生態系の調査、観光資源の保全、自然景観の保全、水産業の復活等につながる取組を数多く実施しています。

● 生態系の調査では、マングローブの生育調査やアマモの生育実験、ドウマンガニの養殖実験や、アサリの再生実験に取り組んでいます。景観保全では、浜名湖マングローブ干潟への漂流ごみの清掃やSUPでのごみ拾い、「浜名湖ごみ拾いシティマラソン」など、浜名湖の美しい景観を守るための取組を行っています。



### はじめたきっかけ

1994年8月に土壌改善実験として、県に許可を取り「マングローブ植栽実験」を開始しました。現在は植栽地を拡張し、土壌・水質浄化実験、自然環境・景観保全を通して地球緑化の在り方を研究するとともに、湖畔に生徒の手で策定・整備して環境散策路を設けました。地域社会や近隣幼・小・中・高校・大学の環境学習教材としても提供し、本校の運動部、自然科学部、マリンスポーツ部と連携して地域社会の環境意識啓発に取り組んでいます。

### ポイント

1994年から30年という長期にわたり継続して「マングローブ植栽実験」に取り組み、生徒が環境散策路を整備し、地域の小・中・高校・大学の環境学習教材にもなるなど、持続的な取組であると同時に、地域社会の環境啓発にも貢献しています。また、アマモの再生による水産資源の回復、炭素の吸収・貯留に向けた取組を進めており、活動の範囲を広げています。

### 地域課題と取組成果

浜名湖は、浜松市の象徴的な地域資源の一つですが、干潟の減少、水中の栄養分減少、地球温暖化による水温の上昇、赤潮の発生などが問題視されています。ごみ拾い等による景観保全に取り組むほか、マングローブやアマモ等の育生は、生態系を豊かにし、水産漁獲量を回復させ、浜名湖水産業の復活に効果が期待されるとともに、炭素の吸収・貯留は低炭素社会につながり、吸収・貯留された炭素を数値化することで、新たな資金（ブルーカーボンクレジット）を得ることも期待できる取組となっています。またマリンスポーツ部が中心となり、近隣小・中学生等へのマリンスポーツの普及や水辺の安全教育、環境教育などを行っており、地域への環境意識啓発にも取り組んでいます。

● 取組形態 有志メンバーで組織

● 発足年 2019年

● メンバー数 160名

● HP URL <https://www.oisca.ed.jp/>

## ●「浜名湖ブルーカーボン未来創造プロジェクト」が始まったきっかけを教えてください。

30年ほど前、本校のすぐそばに人工干潟が造成され、悪臭が発生するようになりました。そこで、本校では、静岡県の許可を得て土壌や水質の浄化を目的にマングローブの植栽を始めました。その後、生徒たちが浜名湖湖畔に環境散策路を整備したり、自然環境や景観保全を通じて地球緑化について研究したり、近隣の幼稚園や小学校などの環境学習の場を提供したりと、地域の環境意識を高めるための活動を続けてきました。ここ数年、国際的にも「ブルーカーボンクレジット」の取引が注目され、私たちがこれまで取り組んできたマングローブの植栽や、アマモの育成実験をもっと活用できるのではないかと考え、「浜名湖ブルーカーボン未来創造プロジェクト」が立ち上がりました。



## ●具体的にはどのような活動をされているのですか？

浜名湖ブルーカーボン未来創造プロジェクトでは、「浜名湖の景観保全」「浜名湖の生態系の調査」「観光・産業資源」の3つを柱に活動しています。

景観保全活動の一つとして「スポーツビーチクリーン」に力を入れています。「浜名湖ごみ拾いシティマラソン」は、TBSテレビ「THE TIME, 全国中高生ニュース」のSDGs特集で紹介されました。

マングローブやアマモの育成実験、透明骨格標本の製作などを行っています。アマモは魚介類の産卵・生育場所となる重要な海草ですが、温暖化や台風の影響で浜名湖のアマモは急速に減少し、生態系にも大きな影響を与えています。アマモの再生は生態系を豊かにし、アサリなどの水産漁獲量の回復につながるだけでなく、炭素を吸収する特性を持つため、脱炭素社会の実現にもつながると考えています。



## ●環境SDGsプロジェクトに参加したきっかけを教えてください。

幼い頃から生き物が好きで、浜名湖の環境について学ぶうちに興味がどんどん深まり参加するようになりました。アマモやアサリの減少は心配ですが、浜名湖にたくさんの生物が戻ってきてくれたらうれしいです。

## ●「浜名湖ブルーカーボン未来創造プロジェクト」のゴールや目標を教えてください。

マングローブも大きく育ってきているので、いつか浜名湖の観光スポットになったらうれしいです。現在、市民団体の方々と一緒に、弁天島のいかり瀬にマングローブを植える計画も話し合っています。

また浜名湖でSUPをしているときに、「湖面にごみが浮かんでいない」というのがひとまずのゴールだと思います。地元の方々も、観光客のみなさんも、きれいな浜名湖でマリンスポーツを楽しめたら良いと思います。



## ●今後の目標を教えてください。

アマモの育成をもっと頑張っていきたいです。今、企業や市民団体の方々から資料をいただき、8種類の植え床を使ってアマモの種からの生育を比較する研究を始めています。こうしたデータを積み重ねて、アマモの再生や浜名湖の生態系回復につなげていきたいです。